

1. 地域連携室の体制

2021年度も看護師3名、社会福祉士1名の体制で連携・退院支援を行った。

2. 地域連携（紹介）

全体の紹介件数は1,593件、近隣医療機関（三角町、大矢野町、松島町・宇土市の一部）からの紹介は746件で前年度より100件ほど増加し、新型コロナウイルス発生以前よりは少ないが元に戻る兆しがあった。2021年度は近隣医療機関からの紹介は微減で（前年比：14件減）、全体数に影響はしていないが、2019年度から減少傾向が続いている。また、科別としては消化器内科、循環器内科、腎臓内科、整形外科の順で紹介が多く例年と変化はなかった。紹介が増加した原因としては、新型コロナウイルス感染症拡大・縮小の波は続いているが、2年に渡るコロナ禍に次第に慣れ、まさに“ウィズコロナ”の状況に入ってきているのではないかと推察する。今後も感染対策を徹底しながら、外来、入院をスムーズに受けられるよう努めていきたい。

3. 連携活動（連携先訪問）

2021年度も新型コロナウイルス感染症もあり、感染が落ち着いた時期に訪問活動を行った。

また、ICTを使ったオンライン面会も一部の医療機関と行っているが、敷居が高いと思われる医療機関もあるため、それをどのような工夫で低くするかが今後の課題である。

4. 退院支援

2021年度は退院支援加算Ⅰを984件、入院時支援加算1を56件算定した。各病棟に配置されている医療ソーシャルワーカー、退院支援看護師や外来看護師と協働し、高齢社会が加速する地域環境の中、入退院支援に取り組んでいる。

安心安全な在宅療養支援のため、コロナ禍の状況の中ではあるが、退院支援部門・リハビリスタッフとの協働で、不算定ではあったが3件の退院前訪問を実施し、可能な範囲で在宅環境調整を行っている。また、介入困難事例についてはミーティング時に情報共有を行い、解決につながる意見交換や、連携部内において年間4症例の症例検討を行い、支援の振り返りを行っている。

その他の取り組みとしては、入退院支援委員会において、病棟と外来の連携が図れるように外来の継続看護システムを継続し、入院・在宅と切れ目のない支援を目指し情報共有している。具体的には退院後の外来受診までに継続介入の依頼、外来サマリーの作成や退院前カンファレンスの開催と外来看護師へ参加の依頼、外来でのIC同席、意思決定支援、専門性の高いリスク評価を行っている。また、前年度より開始した外来看護師と訪問看護師間での直接連携については、引き続き、在宅生活や外来診療における情報交換・共有、受診相談などの対応が円滑に繋がるようなシステムを継続し、11件の連携が図れた。今後も改善点など評価し継続していきたい。

5. 出前・健康講座

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、開催は5件/年となった。ただ、その中で、今回は中学校と小学校から1件ずつご依頼を頂き実施することができた。次年度も依頼があった際は最大限対応していきたい。

6. 次年度の計画

次年度も2021年度と同じく、新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思われるが、次第にウィズコロナの生活様式に少しずつではあるがシフトしてきている印象がある。感染防止に努めながら、次年度も引き続き、連携機関の皆様とICTを使った面会やカンファレンス、情報共有などを積極的に行っていきたい。

紹介件数の推移・内訳



紹介科別内訳

